

素案 1

令和4年10月 日

富良野市教育委員会
教育長 近内 栄一 様

富良野市社会教育委員
委員長 天日 守

生涯学習センターの利活用促進について

令和4年2月15日付けで諮問のありました「生涯学習センターの利活用促進について」、次の通り答申いたします。

富良野市社会教育委員

委員長	天日 守
副委員長	遠藤 和章
委員	桑原 啓成
委員	田畑 幹夫
委員	高田 安利
委員	原田 武
委員	平間 早苗
委員	大橋 修一
委員	天間 紀明
委員	永盛 俊行
委員	橋場 唯
委員	中田 昭子

素案 1

答 申 書

1、はじめに

富良野市社会教育委員会議は、令和4年2月15日付で、富良野市教育委員会から「生涯学習センターの利活用の促進について」の諮問を受けました。

本答申書の作成にあたりましては、社会教育委員による生涯学習センターの現地視察を始め、調査、意見交換などを通して、施設の利用促進のために改善を検討すべき点、施設のさらなる有効活用に向けた手立てについて検討してまいりました。

残念ながら、利用者及び住民に対するアンケート調査ができず、生の声を聴くことはできませんでしたが、本答申が生涯学習センターの今後の利用促進、有効活用に寄与できることを切に願うものです。

2、公民館の求められる・期待される役割

国では、平成30年12月に中央教育審議会が国から諮問された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の答申を行っています。

このなかで、公民館に求められる・期待される役割として、住民の学習の成果を地域課題解決のための実際の活動につなげていくための役割、すなわち地域活性化・まちづくりの拠点施設としての機能が期待されています。また、地域の防災拠点、地域学校協働活動としての役割や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携も期待されています。

さらに、博物館においても、学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施、観光振興や国際交流の拠点施設としての役割が求められています。

これまで社会教育施設が培ってきた地域との関係を生かしながら、地域の実態に応じた学習と活動を結びつけ、公民館の「つどう、まなぶ、むすぶ」機能を地域づくりにつなげる新しい地域の拠点施設をめざしていく役割が強く望まれています。

3、現状

1) 富良野市生涯学習センター

富良野市生涯学習センターは、市民の生涯学習の拠点施設として様々な

素案 1

学習活動のサポート、ふれあいの場を提供する施設として、閉校となった富良野農業高等学校の校舎を活用し、平成14年9月1日にオープンしています。

施設は、博物館、文化財保護、山部公民館という領域を担当し事業展開をしています。施設内は博物館エリア（博物館常設展示室、森の教室、展示ホール）と公民館エリア（体験学習室、陶芸窯室、多目的アリーナ、食品加工実習室、調理実習室、研修室、和室など）に分けられています。

(1)博物館活動

博物館エリアでは常設展示室の一般開放を行うとともに、企画展や特別展も行っています。また、郷土の自然や歴史、文化などについての調査研究、貴重な資料等の収集・分析・保存のほか、それらを学ぶ機会を広く提供し、郷土に対する理解を深めていただく取り組みを展開しています。

(2)公民館活動

地域住民の生涯学習活動、社会教育活動の拠点として、様々なサークル活動、芸術活動やスポーツ活動での利用、社会教育関係団体における活動の支援のほか高齢者大学や市民講座なども実施しています。

4、生涯学習センターの利活用の促進について

各委員による検証の結果、今後次の点について教育委員会として取り組んでいただくことにより、利活用の促進につながることを期待いたします。

1) 施設の利用促進に向け改善を検討すべき点について

- 生涯学習センターという名称はどうしても公的な硬いイメージがあります。柔らかい名称を付すか親しみのある愛称を使用し、さらには新たにロゴを作成し使用することにより、イメージ的にも多くの方々が足を運びやすい施設となることを期待いたします。
- ホームページの充実やSNSの活用など、様々な年代やニーズに合わせて情報発信の媒体や特性を生かした発信方法の工夫が望まれるところです。
- 利用者の主な対象を市民に限定しないで、周遊客などが気軽に立ち寄ることのできる施設としての利用拡大を検討すべきです。このためには、施設が国道に面していますので、地の利を活かして車からも見やすい看板の設置や施設への誘導の仕方を工夫すべきです。

素案 1

2) 施設の更なる有効活用に向けた手立てについて

- 社会に開かれた教育課程の実現に向け、森林学習プログラムを山部地域の特色を生かしてさらに発展させるとともに、小・中・高校と連携したカリキュラムの検討や出前授業など、地元学校の利用を増やす工夫が必要です。
- 森林プログラムをはじめとして、秀峰芦別岳及びその麓の田園風景を生かした各種フィールドワークや東大演習林との連携、自然ガイドサポートなど地域人材を活用したプログラム作りなど、山部地域の特性を生かした運営が望まれます。
- 生涯学習センター内には、調理実習室、食品加工室、体験交流室、多目的アリーナなどがあり、それぞれの機能をさらに有効活用した体験型プログラムの開発・充実が望まれます。
- 文化をただ発信するだけではなく、その歴史や背景・内容を伝えていく文化観光の取組みにより、博物館に対する関心が深まると思われます。
- 山部地域の強みである農業と観光の連携による、市内外の方への滞在プログラム（グリーンツーリズムやアグリツーリズムなど）の提案やコンテンツの提供が望まれます。
- 広い施設を活用し、天候の悪い日でも多くの子ども達が安心して安全に屋内で遊ぶことのできる子育て支援施設の設置を検討願います。
- 国道38号線沿いに立地している利点を生かし、地場産野菜・果物や加工品などの販売を、地域住民の運営による「道の駅」のような機能を持たせた施設を整備することにより多くの方の来場を得ることができ、その方々が博物館施設を見学することも期待します。
- 過去に実施していたクリエイターズマーケットなど、イベント的要素のある地域手作りの催し物の復活を願います。

3) 望ましい管理運営について

- 施設の存続意義は入込数だけでは評価できないことから、今後は、利用者の満足度調査などを実施し、総合的な評価の実施を期待します。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で利用数は減少していますが、引き続き魅力的な講座・展示の実施、資料の収集に努められ、新たな利用者層の開拓とともに、リピーター層の確保に向けた取り組みを期待いたします。
- 今回の答申をまとめるにあたり、各委員からは、ソフト面での充実を望む意見やアイデアが多くいただきました。しかし、これらを実施するためには、現在の限られた職員数では対応が困難と思われれます。このため、

素案 1

管理運営については、市民の立場に立った運営でのサービス向上や、効率性、民間事業者のノウハウを生かした柔軟な取組みが期待できます指定管理者の導入や運営の一部を業務委託にするなど、民間活力による運営の検討が望まれます。

- 山部地域の社会教育活動の中心的な施設である生涯学習センターの事業に、地域住民が主体的にかかわることにより、持続的な地域振興や地域づくりに生かすことが可能となると思われまます。

5、おわりに

山部地域の公民館活動は、山部公民館の前身である公会堂が昭和8年に建設された時から始まり、戦後、昭和29年に山部公民館が開設されました。これにより女性や青年のグループ学習、サークル活動などが活発となり昭和33年には文部省の優良公民館表彰を受賞するなど、その活動は全国的に知られるところとなりました。その後、旧富良野市山部公民館と旧富良野市郷土館が一体となった生涯学習センターが、体験と交流を基調とした複合の社会教育施設として整備されました。

しかし、山部地域では中学校が生徒数の減少により閉校となるなど少子化の波は確実に訪れ、今後、山部地域の人口減へとつながり地域活動の衰退へとつながる恐れがあります。

生涯学習センターは歴史ある山部地区の公民館活動を引き継ぐべき施設として、山部地域における社会教育活動の中心的拠点施設として活用されるべきであり、今後も本市の生涯学習施設として社会教育（公民館）活動、博物館活動が衰退することなく推進されるよう、強く望むものです。